

広島紙ヒコーキを飛ばそう会

<http://www.orkomi.org/orisuma/kamihikouki/>

あきら
事務局長 中野 侃 さん(67)＝広島市西区

大空に挑む楽しさ紹介

全国回り作り方など指導

帰って一緒に楽しみたい。そんな心を持たない中野侃さんは、年に全国四十力以上を回り、紙飛行機の楽しさを伝えていく。

中野さんの作る紙飛行機は、はがきはちまも少し硬いケント紙を切る。ホチキスや接着剤でバランスよく留め、輪ゴムの力で空に向かって垂直に飛ばす。気流に乗ると、いつまでも空を舞う。自分だけの紙飛行機が作れることが魅力という。

広島生まれの中野さん。飛行機乗りにあこがれたが、就職先は建設会社、トンネル工事担当。仕事を終え、トンネルから出たときに目の前に広がる青い空を見るたびに「空っていいな」と思った。

一九九四年、紙飛行機大会を見て「自分でもできる」と挑戦を始めた。二年後の広島大会から二年連続一位、九八年の全国

大会では六位入賞。競技とて大事にしまつてある。二〇〇〇年、退職と同時に「広島紙ヒコーキを飛ばそう会」を結成、H.P.も開設した。作り方や飛ばし方などの指導の依頼があれば、どこへでも行く。H.P.では、大会や「紙ヒコーキ教室」の様子も紹介している。

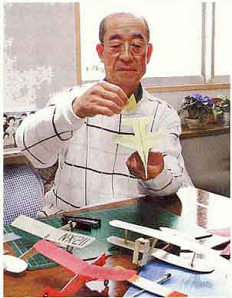
大人と子どもが知恵を出し合い、大空に挑戦する楽しさを味わってほしい。そのなかから自分の後継者が育つてくれたら、そんな思いを胸に、中野さんはきょうも全国を飛び回っている。(堀口綾子)

誰もが一度は作り、飛ばしたことがある紙飛行機。子どもは無邪気に、大人は真心に



「紙ヒコーキ教室」に参加した子どもたちの様子を紹介した。H.P.」

位、九八年の全国



「多くの人に紙飛行機の楽しさを知ってほしい」と話す中野さん。依頼があれば、作り方や飛ばし方の指導に出掛けている